

## 溶出試験

### シクロスポリンカプセル 50mg 「日医工」

#### 溶出試験条件

装置	日本薬局方 溶出試験法 パドル法	液量	900mL	温度	37±0.5℃
----	------------------	----	-------	----	---------

#### 溶出試験結果

回転数	試験液	判定
50rpm	pH1.2	本品と標準製剤の平均溶出ラグ時間の差は10分以内であり、溶出ラグ時間以降15分において本品の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあった。
	pH5.0	標準製剤の平均溶出率が40%及び85%付近の2時点において、本品の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあった。
	pH6.8	標準製剤の平均溶出率が40%及び85%付近の2時点において、本品の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあった。
	水	標準製剤の平均溶出率が40%及び85%付近の2時点において、本品の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあった。
100rpm	pH5.0	本品と標準製剤の平均溶出ラグ時間の差が10分以内であり、溶出ラグ時間以降15分以内に標準製剤及び本品は平均85%以上溶出した。

シクロスポリンカプセル 50mg 「日医工」の溶出挙動を標準製剤（ネオーラル 50mg カプセル）と比較した結果、上記全ての条件において「生物学的同等性試験ガイドライン」の判定基準に適合した。

